

# 終章 マクロ経済学のまとめ

マクロ経済学

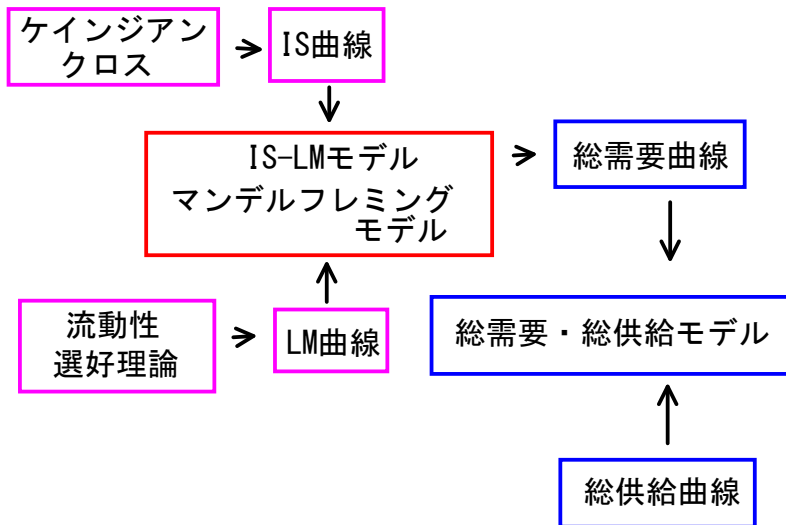


教員：奴田原 健悟

<http://www.kengonutahara.com/teaching>

# 短期のマクロ経済理論のまとめ

後期授業で扱った部分の総まとめ



# 短期と長期のモデルの関係 (1/6)

ベースとなるモデル（閉鎖経済を仮定）

$$\text{(財市場)} \quad \underbrace{Y}_{\text{供給}} = \underbrace{C(Y - T) + I(r) + G}_{\text{需要}}$$

$$\text{(貨幣市場)} \quad \underbrace{\frac{M}{P}}_{\text{供給}} = \underbrace{L(i, Y)}_{\text{需要}} = L(\underline{\hspace{2cm}}, Y)$$

⇐ フィッシャー方程式 ( $r = i - \pi$ ) から

# 短期と長期のモデルの関係 (2/6)

短期 : \_\_\_\_\_ 一定 (インフレ率  $\pi$  ゼロ)

(財市場)  $Y = C(Y - T) + I(r) + G$

(貨幣市場)  $\frac{M}{P} = L(r, Y)$

← \_\_\_\_\_ モデルで実質利子率  $r$  と所得  $Y$  が決定

# 短期と長期のモデルの関係 (3/6)

長期 : \_\_\_\_\_ が成立

$$\text{(財市場)} \quad \bar{Y} = C(\bar{Y} - T) + I(r) + G$$

$$\text{(貨幣市場)} \quad \frac{M}{P} = L(r + \pi, \bar{Y})$$

- ▶ 財市場の式 : \_\_\_\_\_ が決まる
- ▶ 貨幣市場の式 : 貨幣供給量  $M$  の変化は物価  $P$  とインフレーション率  $\pi$  に影響 (前期の講義では、  
\_\_\_\_\_ でこの関係を説明)

# 短期と長期のモデルの関係 (4/6)

ベースとなるモデル (小国開放経済を仮定)

$$\text{(財市場)} \quad \underbrace{Y}_{\text{供給}} = \underbrace{C(Y - T) + I(r^*) + G + NX(\varepsilon)}_{\text{需要}}$$

$$\text{(貨幣市場)} \quad \underbrace{\frac{M}{P}}_{\text{供給}} = \underbrace{L(i, Y)}_{\text{需要}} = L(r^* + \pi, Y)$$

← 自国の実質利子率  $r$  は、(外生な) 世界の実質利子率  $r^*$  に

▶ 仮定 : \_\_\_\_\_ + 完全な \_\_\_\_\_

# 短期と長期のモデルの関係 (5/6)

短期：物価一定（ゼロインフレ）+純輸出は  
の関数 ( $\varepsilon = \frac{eP^*}{P}$ )

---

$$\text{(財市場)} \quad Y = C(Y - T) + I(r^*) + G + NX(\underline{\hspace{2cm}})$$

$$\text{(貨幣市場)} \quad \frac{M}{P} = L(r^*, Y)$$

← モデルで  

---

名目為替レート  $e$  と所得  $Y$  が決定

# 短期と長期のモデルの関係 (6/6)

長期 : \_\_\_\_\_ が成立

(財市場)  $\bar{Y} = C(\bar{Y} - T) + I(r^*) + G + NX(\varepsilon)$

(貨幣市場)  $\frac{M}{P} = L(r^* + \pi, \bar{Y})$

- ▶ 財市場の式 : \_\_\_\_\_ が決まる
- ▶ 貨幣市場の式 : 貨幣供給量  $M$  の変化は物価  $P$  とインフレーション率  $\pi$  に影響



# マクロ経済学の重要な教訓 (1/2)

教訓 1 : 長期では、一国の所得水準はその国の  
\_\_\_\_\_で決まる (第3～8章)

---

- ▶ (1) 資本と労働の供給量と (2) 生産技術

教訓 2 : 短期では、一国の \_\_\_\_\_ が  
その国の所得水準を決める (第8～11章)

# マクロ経済学の重要な教訓 (2/2)

教訓 3 : 長期では、貨幣量の変化は

を決めるが、所得

水準には影響しない (第 5・8 章)

教訓 4 : 短期では、財政金融政策によって、

や

を変化させること

ができる (第 8 ~ 11 章)

# マクロ経済学の後にお薦めの授業

- 1 国際マクロ経済学 1・2 :
  - ▶ 開放経済のマクロ経済学をもっと深く勉強します
- 2 経済成長論 :
  - ▶ 超長期の経済成長について学びます
- 3 応用マクロ経済学 1 a・b :
  - ▶ 計算問題を解けるようになりたい人、公務員試験など資格試験を受ける人にお薦め
- 4 応用マクロ経済学 2 a・b :
  - ▶ マクロ経済学 1・2 で扱えなかった重要トピックを扱います。マクロ経済学をもっと学びたい人にお薦め
  - ▶ 奴田原が来年度担当予定

後期試験での健闘を  
祈ります！